

小児てんかんの原因と治療

小児科

日暮憲道 診療医員



てんかんは、脳が一時的に異常興奮することで起こる「てんかん発作」を、長年にわたって繰り返す可能性のある脳の慢性疾患です。小児期は第一の発症ピークであり、てんかんの種類や原因も多彩で、専門医による判断が欠かせない疾患です。

てんかん発作の症状は幅広く、体を硬直させたりガクガクさせるような「けいれん」がよく知られていますが、ぼーっと反応がなくなるだけのこともあります。特に、けいれん症状が目立たない場合、てんかんであることに気づかれにくく、診断や治療の開始が遅れる傾向があります。また、てんかんと診断されても、実はてんかんではなかった、ということも起こりうるので、お子様が何となくいつもと違う様子になることが何度かあった場合、早めにご相談ください。

また、てんかんの原因には、遺伝的な体質の問題や、脳の構造の問題、代謝、感染、自己免疫など、さまざまなものがあります。原因がわからない場合も少なくありませんが、状況に応じて適切に検査をすることで正しく原因診断を行い、治療につなげていくことが大切です。

てんかんの治療は、まずは発作を予防するための薬物治療を行います。このような薬は「抗てんかん発作薬」と呼ばれ、日本で使えるのはすでに25種類以上に及んでいます。上記のことを正しく診断することで、適切な薬の選択や治療計画を立てることができます。ただ、原因によっては脳外科的な治療や、食事療法(ケトン食療法)などが必要となる場合があります。ただし、これらの大前提として、発作の誘因を回避するための工夫や生活習慣の見直しをすることは欠かせません。

慈恵医大の小児科では、数多くのてんかんの子供の検査や治療にあたっています。お子さんのことで気がかりな点がございましたらお気軽にご相談ください。



JIKEI VIDEOS

動画概要

小児のてんかん - 多彩な発症原因と治療法 -

詳細については、QRコードを読み取り動画をご視聴ください。



YouTube